

平成18年度市町村民所得推計の概要

1. 市町村内総生産

(県内の状況)

平成18年度の市町村内総生産の総額(市町村計)は5兆7201億円で、前年度に比べ0.3%の増加となった。

市町村別では、総生産額が増加したのは23市町村で、減少したのは25市町村であった。

産業別では、構成比の高い製造業が増加した。その他、建設業も増加した。増加率の大きい市町村は、球磨村(+26.6%)、菊陽町(+14.2%)、富含町(+9.6%)などであった。

産業別では、構成比の高い製造業が増加した。その他、建設業も増加した。増加率の大きい市町村は、球磨村(+26.6%)、菊陽町(+14.2%)、富含町(+9.6%)などであった。

一方、減少率の大きい市町村は、宇土市(▲6.3%)、和水町(▲6.3%)、相良村(▲5.6%)などであった。

(天草市の状況)

平成18年度の市町村内総生産の総額は、2,428億9,418万円で、前年度に比べ0.8%の減少となった。

これは、公共土木工事の増加により建設業生産額が前年度と比較し16.3%増加したものの、農業が19.5%の減少となったことなどが主な要因である。

本市の経済成長は、遡及改定し推計した平成16年度から連続してマイナス成長となっている。

また、県内市町村総額に占める本市の総生産額は、4.2%となり、前年度に比べ0.1%の減少となった。

2. 市町村民所得

(県内の状況)

平成18年度の市町村民所得の総額(市町村計)は4兆4022億円で、前年度に比べ0.7%の増加となった。

項目別にみると、雇用者報酬が0.4%の増加、財産所得が24.3%の増加、企業所得が4.0%の減少となった。

また、市町村民所得を市町村総人口で割った一人当たり市町村民所得は、大津町が5,449千円と最も大きく、次いで合志市2,981千円、熊本市2,811千円の順であった。

（天草市の状況）

本市の平成18年度市町村民所得の総額は、1,671億9,516万円で、前年度に比べ1.8%の減少となった。

項目別にみると、雇用者報酬が1.8%の減少、財産所得が40.6%の増加、企業所得が6.6%の減少となった。

また、一人当たり市町村民所得は、176万円となり昨年度より5千円、0.8%のマイナスとなった。県内市町村平均額238万9千円と比べ、62万9千円低い額となっており、遡及改定し推計した平成16年度から連続して格差が広がっている。

一人当たり市町村民所得額を県内順位別で見れば、本市は、48市町村中34位、14市中では13位となっている。

一人当たり市町村民所得は、市町村民所得を市町村の総人口で除したもので、市町村経済の水準を表す指標です。

この市町村民所得には、家計（個人）が受け取る所得だけでなく、民間法人企業等の所得も含まれ、また、総人口には、生産に従事していない失業者、高齢者、子供も含まれません。

よって、一人当たり市町村民所得は、個人一人当たりの年収額に相当するものではありません。

- ・市町村民所得 = 「雇用者報酬」 + 「財産所得」 + 「企業所得」
- ・市町村の総人口：国勢調査年は国勢調査値、その他の年度は国勢調査値から推計した。